

# 英霊の声なき声を代弁



発行所  
一般財団法人滋賀県遺族会  
滋賀県大津市におの浜4丁目2-34  
滋賀県遺族会館  
電話 (077)522-7227  
FAX (077)522-7233  
発行責任者  
滋賀県遺族会長  
岸田 孝一

## 新年のご挨拶



滋賀県遺族会長 岸田 孝一

新年おめでとうございませう。

会員の皆様にはご家族お揃いで、平成30年の初春をお元気でスタートされたことをともに喜びたいと思います。

戦前・戦中・戦後とまさに、戦争の生涯を過ごされた昭和天皇が崩御され、平成時代となり早や30年を迎えました。この平成もあと1年と4ヶ月で次なる時代となります。今上陛下は、昭和天皇が成されなかつた戦地への追悼慰霊を、ご高齢をも顧みられず海外へと向かわれ、サイパン、パラオ・ペリリュー島、フィリピン共和国、ベトナム、タイと戦没地を慰霊に訪れてくださいました。私たち遺族にとりまして心からの喜び、そして感謝でございます。

我が国も大東亜戦争の敗戦から73年となり、平和が続いていることは大きな喜びであり、永遠に続くことを願うものです。しかし、北朝鮮はミサイルと核開発を続け

ております。絶対に戦争はしないで欲しい。それは私たちが同じ苦しみを味わってほしくないからであります。平和な国を守り続けることは大いなる知恵と努力が要ると

## 青年部 滋賀県知事と意見交換会

### 滋賀県護国神社にて開催

平成29年12月10日、お忙しい三日月大造滋賀県知事が滋賀県遺族会青年部地区委員との意見交換会を開いてくださいました。会場は、私たちの念願がかなない滋賀

県護国神社社務所で行われました。知事が境内にお入りいただいたことは、私たち遺族は勿論、何よりも英霊が喜びであったと思えます。南方の小島や極寒



三日月知事を囲む青年部地区委員のみなさん

の地あるいは海深くに眠っておられる英霊全てに、知事が頭を下げ、英霊顕彰館にもお入りいただき感慨深く遺影に思いを寄せられました。あとがき！懇談会の最後に、三日月知事から「青年部の活動に共感を覚える。激戦地を訪れて、初めて理解できる感覚がある。若者が自らの感性で学ぶことは重要な。私も滋賀県遺族会の事業でフィリピンと沖縄への慰霊巡拝の経験があり、今後も公務の都合がつけば、出来る限り参加したい」と力強いコメントをいただきました。(広報 原 幸男)

# 「700人」草津に集合

## 滋賀県戦没者遺族大会

平成29年度滋賀県戦没者遺族大会が11月12日、草津市立草津クレアホールで開催されました。

三位を迎え、県下各地から約700人の遺族会員が参加しました。

第1部では、開会の言葉、国歌斉唱、英霊に対して黙禱、岸田孝一滋賀県遺族会長の挨拶に続き、戦没者遺族に対する

援護事業に貢献された方々に滋賀県知事表彰が5人、滋賀県遺族会長表彰が25人に授与され、被表彰者を代表して近江八幡市の井上亮一さんが謝辞を述べられました。

続いて、三日月知事、奥村県議会議長



挨拶をする岸田孝一滋賀県遺族会長

から祝辞をいただき、橋川草津市長から歓迎の言葉が述べられました。今回もうれしいことに国会議員と多く、心ならずも

1分間のスピーチをお願いすることとなりました。次世代戦跡訪問研修体験発表では、地元草津市立松原中学校1年生の吉野心晴さん、稲葉琉太さん、宇野太智さん、瀬尾晏司さんが発表してくれました。皆さん大変落ち着いた正面を見て発表し、時々原稿に視線を落とす程度で、聞く方も大

変聞きやすく、知覧の特攻平和会館での講話や研修で感じた思いが素直に伝わり好評でした。引率等お世話いただいた皆様ありがとうございました。最後に木村正昭草津市遺族会連合会長が大会宣言(案)決議(案)を朗読し、全員が拍手で承認し採択されました。



## 有村 治子議員

### 滋賀県遺族会活動 全国で紹介

#### 参議院予算委員会

第2部では、有村議員から記念講演として「幸せと安全を創り固め成していくこと」と題して話していただきました。

内容は、平成28年9月25日開催の滋賀県戦没者遺族大会で陳情された「出征兵士の遺品(寄せ書き日の丸・千人針)のインターネットオークションでの競売問題」をNHK全国中継があつた参議院予算委員会に取り上げ、内閣総理大臣・厚生労働大臣・外務大臣・経済産業大臣の答弁を引き出されたことでした。

その際、滋賀県平和祈念館所蔵の千人針の実物を手にとって全国で紹介され、この国会質問が契機となつて、米国のインターネットサイトにおける遺品の競売が自粛されるようになり、「滋賀県遺族会では…」と、我々の活動の様子が全国で紹介されたことは滋賀県遺族会員として大変喜ばしいことでした。(総務企画委員会 委員 竹井 昌夫)

以上、経緯について、国会での質疑を中心に10分間の映像で紹介された後、いつものスタイルで舞台を端から端まで広く使い、会場の全ての人に目配りしながら語りかけられました。特に印象に残つたのは、平成28年、靖国神社遊就館の特展に展示された1枚の絵「最後の乳房」の話です。従軍看護婦として出征を控え、駅の片隅で乳飲み子に、まさに最後ののおっぱいをあげている光景。我が子との最後の別れの場面を語りながら思わず絶句された時、会場の中の人が目頭を押さえておられました。今回の講演でも、また多くの有村ファン、ハルキストが増えたことでしょう。



### 新年のご挨拶



日本遺族会会長  
参議院議員  
水落 敏栄

ご遺族の皆様にはお元気で新しい年をお迎えのことと拝察いたします。昨年九州北部豪雨や台風などの自然災害により、多くの地域で甚大な被害が発生しました。被災され、今もお不自由な暮らしを余儀なくされている皆様にも政府・与党一丸となって、復旧復興に全力を尽くして参ります。

昨年、本会にとって新たな門出の年となりました。9月19日、天皇、皇后両陛下ご臨席のもと、日本遺族会は創立70周年記念式典を挙行しました。天皇、皇后両陛下におかれては、皇太子同妃両殿下時代より昭和天皇の名代として各地を訪問され、即位後は、戦後50年に長崎や広島を訪問された後、海外での戦没者を慰霊する「慰霊の旅」を始められ、戦後60年のサイパン島をはじめ、戦後70年にはパラオ共和国、そして昨年はフィリピン共和国を慰霊訪問してくださいました。そして5年ごとの節目に挙行する本会の創立式典には必ずご臨席くださいました。今回の式典では、お帰りの際に、「遺族も高齢化し大変だと思いますが、よろしくお祈りします」と天皇陛下より直々にお言葉を賜りました。両陛下が常に戦没者

## 英霊顕彰は恒久平和を希求する活動

とその遺族に心を寄せ続けていくべきことは、誠に感謝にたえません。両陛下が、国民にお示しくくださった「平和の尊さ」と「戦争の風化への危惧」は、私たち遺族こそが、社会的責務として次世代へ語り継がなければなりません。

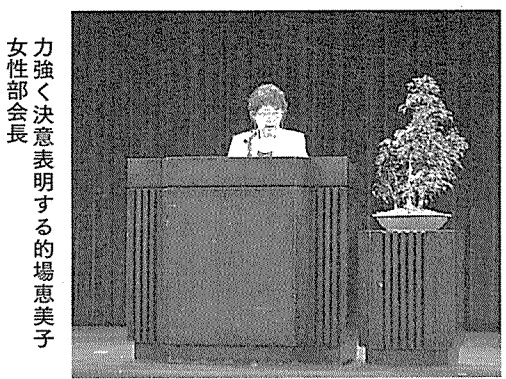
本会がその決意を形としたのが、昨年3月に発足した戦没者の孫・ひ孫等をつくる青年部であります。結成に至るまで困難を極めました。戦没者遺族と意識することもなく、平和で豊かな社会に育った世代です。その青年部の心を動かしたのは発案した女性部の熱意でありました。まさに恒久平和を希求する活動であり、今後は私たち遺児世代が青年部と両輪となって、共に活動していかなければなりませんので、皆様には引き続きご尽力賜り

## 特攻隊は「神」の領域

### 女性部研修会

平成29年度女性部研修会が秋晴れの10月11日、近江八幡市の滋賀県立男女共同参画センターで、滋賀県遺族会役員・女性会員等約200人が参加して開催された。

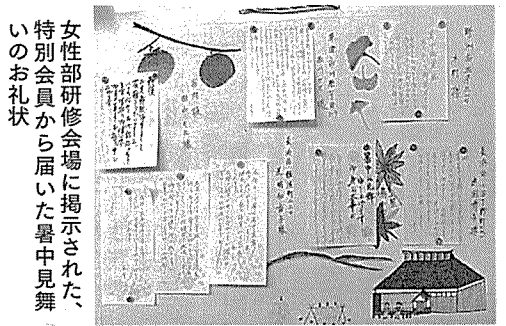
国歌斉唱、黙祷に続き、的場恵美子女性部会長（滋賀県



力強く決意表明する恵美子女性部会長

の想いと題した講演に移った。講演は、靖國神社の歴史に始まり、念願の総理の参拝について、各大臣を含めて例大祭への参拝を熱望された。

「神」の領域である」と力説された。そして「遊就館には、このような資料が沢山展示されているので、是非見学し英霊の足跡を感じたい。」



女性部研修会場に掲示された特別会員から届いた暑中見舞いのお礼状

遺族会副会長・日本遺族会女性代表）が、遺族会存続のため「青年部を結成・充実し確実に次世代に継承してゆく」と力強い決意を表明された。

最後に「父・母・家族・国のためのみを思い、そこには自らの欲望は全くない特攻隊員の気持ち

は、まさしく『神』の領域である」と力説された。そして「遊就館には、このような資料が沢山展示されているので、是非見学し英霊の足跡を感じたい。」

### ソロモン諸島慰霊友好親善

## 父の気持ち偲び 涙



追悼文を朗読する松田さん

この度、念願がなつて初めて日本遺族会のソロモン諸島地域の慰霊友好親善訪問団に加わり、父の戦死したガダルカナル島の「セギロウ」に行つて参りま

した。行くまではとても不安でしたが、成田から飛び立ち、ポートモズレーを経由してガダルカナル島のホニアラ国際空港に到着。ガダルカナル島は想像して

いた以上に発展しており、車社会に驚きました。75年前、日本から遠く離れた南太平洋のこの島で、父は戦死したのです。当時のガダルカナル島は、

日本兵3万人以上が上陸し、2万2千人が戦死したと言われています。しかし、実際の戦闘では5、6千人の戦死で将兵のほとんどは、餓死かマラリア等の病死だったと伝えられています。

今はガダルカナル島まで8時間ほどで行けませんが、当時は船底で何日も暮らして到着し、そのうえ食料もなく、熱帯の暑さの中で、故郷を思いながら戦つた父たちの気持ちを偲ぶと、セギロウで追悼文を朗読しながら涙があふれてなりません。そして「このような悲惨な戦争を繰り返してはいけません」と心に強く誓いました。

松田 啓子（彦根市遺族会）

## 国・県に要望

滋賀県遺族会主催の、恒例の「自由民主党滋賀県選出国會議員・滋賀県議會議員団とのつどい」が12月2日、大津市アヤハレパークサイドホテルで開催され、岸田孝一滋賀県遺族会会長から国・県に対し要望された。要旨は次の通り

- 「特別弔慰金の支給範囲」を戦没者の「孫」世代までへの拡大を願う。
- 前知事時代に廃止された戦没者家族に対する慰霊品配布制度の復活を期待する。
- 築45年を経た滋賀県遺族会館の耐震強化費への支援をいただきたい。
- 青年部に対する支援および全国追悼式への青年部の派遣枠の拡大を期待する。
- 滋賀県戦没者追悼式はじめ英霊顕彰事業が、県民運動として広がるよう啓発していただきたい。
- 県および公共機関が発行する地図・案内板に護國神社を明記して欲しい。
- 滋賀県護國神社の春・秋の例大祭や戦跡慰霊巡拝に、知事の参拝・参加を期待する。

（広報 原 幸男）

女性部研修会

英霊の御心に触れ

(その1)

◆◆松本聖吾靖國神社権禰宜の講演を拝聴して◆◆

滋賀県遺族会 評議員 彦根市 中村 正



初めに 松本聖吾靖國神社総務課長・権禰宜の講演に涙。純粋さにおいて英霊の方々は180度違った数十年前の我が身と、再び方向転換して遺族会活動を大事に思う我が身とを重ねた。私たちが成すべき英霊顕彰と恒久平和国家の実現について、今までの遺族会活動以外にもそれにかかわる大事なことがあったはずだと思えるのに、気づかずに放置していた。いや、これこそが平和ボケではないのかと改めて思ったところである。

英霊は悪いことをしたのか？ 家族と皇国の行く末のみを思い、国に尽くし捧げられた尊い命。この純粋さこそが、日本国民により神と崇め、永劫に称えられるべき英霊の姿であると感銘した。

しかし、青少年時代の私は、靖國神社が大嫌いであった。何で戦争をした人々を祀るのかと。それは憤りに近いほどであった。戦争を憎む純粋さゆえだと言えなくもないが、平和憲法という魔法(※平和憲法などという憲法はどこにもない。有るものは日本国憲法である)を絶対視し、中学1年生で憲法前文を暗記して、その崇高な理念に酔いしれるしか能のない未熟さ故であったと悟る

後世に伝える 人の気持ちは揺れ動く。しかし、断じて動かしてはならない一点は、「戦争は再び起こすな」という数百万の英霊のご遺志を、日本国民の決意として未来永劫継ぎ続けることであり、このために、私たちが今成すべきことは、また出来ることは何であろうか？

戦後70余年、平和な我が国の歴史と今日の世界情勢からも、30数年前までの私の未熟さは赤面するほど明らかであるが、現在、いや将来においても平和、平和と声高に叫ぶだけではこの平和な国土を守りきれないのである。この現実を、しっかりと見据えた国論統一こそが外敵を寄せ付けぬ最強の砦であることを、英霊にお示しできる遺族会活動であらねばならぬと思うのである。

遺族会活動は、その本質を国民に引き継ぐことが最良で可能であると考え

私たち戦没者遺族は、英霊顕彰を行動の柱とする恒久平和の実現という崇高な理念のもとに、今日まで頑張ってきた。しかし、その行動力は

正しい歴史認識を次世代に引き継ぐ…英霊顕彰の本質

高齢化、後継者不足に加え、資金不足という切実な現実には有効な打つ手が無い。とは言え、これも当然の姿と認めなければならぬが、何としてもこの火だけは絶対に消したくない。むしろあらゆる英知を集めてより強くしなければならぬ。

私は、このことかかてから思っていることがある。英霊に伝える義務を果たすために今の私たちが成すべきこと、今の私たちに無理なくできることを貫けば、私はその成果が、時を経て確実に英霊にお認めいただける姿になるはずと、講演を聴き確信した。その確信を、何として会員諸氏にお伝えしたいと思う。

紙面の都合で、今回その結論は次回発行の「遺族の友」第257号(その2)に委ね、本紙では講演で感じたことを先ず述べさせていただく。講演で、若くして英霊となられた方々の純粋さを、洗脳されていたかという人たちがいるとの話があった。異なる思想信条で扇動する人たちがそう言っているのだから。

私たちは、先の大戦を大東亜戦争と呼んでいる。それならばなおのこと、その正確な事実にもとづく歴史観をしっかりと身につけて、この国の平和と国土を守る次世代に引き継がなければならぬ使命がある。この正しい歴史認識を次世代に引き継ぐことこそが、まさに英霊顕彰そのものの本質だと思っている。国民に広く英霊顕彰の本質を知らしめることが重要なのである。

現下の社会情勢、世界情勢のもと、正しい歴史認識に目覚めた人ならば、その心と体は必ずや靖國神社に向うであろうと確信するものである。またそれ故、総理大臣の靖國参拝は真の独立国家として不可欠の要諦である。

講演に関連して、参加者からA級戦犯合祀の話があった。戦争責任がうやむやになっていくとの話があった。戦犯とは何なのか？問題にされる戦犯とは、戦勝国によって戦犯と

♪火筒のひびき遠ざかる♪

山川さんの名譽のために

平成29年度滋賀県戦没者遺族大会で、有村治子参議院議員が講演の冒頭で、平成29年10月31日発行の「遺族の友」第255号の山川芳志郎守山市遺族会長投稿記事の中で「従軍看護婦」が「従軍慰安婦」と印字されていることを指摘。遺族会員の一人として一瞬耳を疑い、ぞつととした。どの段階で間違ったのかは知らないが、最も忌まわしい言葉であった。

あらためて、守山市出身の従軍看護婦で戦没された「大谷しなさん」への慰霊の想い出を綴る。その前に、私は小学校5年生(その頃は国民学校5年生)の時に大津赤十字病院に入院していた。病室の隣が院長室か医長室か何かは知らぬが、毎日のように紺の制服制帽革帯のたすき掛けに靴等を下げた女性が、出征の挨拶に出入りされていた。清らかな神々しくさえ感じたものだった。

常口にするのだが、彼女等はいかなるときにも常に笑顔をもって患者に接し、上は将校から下は兵

かけ、涙ながらに「火筒のひびき遠ざかる…」の婦人従軍歌を3番まで空むじて歌い、慰められたことを思い出す。稲葉知事も目を押さえ、聞いておられた。その稲葉知事も高田さんも泉下の人(今は亡き人)。大谷さんと話でもしておられるのではないかと従軍看護婦、かかる尊い存在である。婦人従軍歌の一節 火筒のひびき 遠ざかる 跡には虫も 吹きたつ風は なまぐさく くない染めし 草の色 (守山市 杉江 周作)

靖國参拝の短歌・俳句募集

趣旨 今年も3月13日から15日、県内各地から500人余の一同が靖國神社に昇殿参拝します。参拝者に、その思いを書き綴っていただくため、靖國参拝の短歌・俳句を募集します。

- (課題)「靖國の旅」に限定
(応募用紙) 参拝往路幹線の車中で配布する参加者名簿冊子に挟んで、参拝者全員に渡します。応募者は、応募用紙を切り取って使用してください。
(応募数) 短歌2作品、俳句2作品まで
(応募作品送付先) 滋賀県遺族会事務局(彦根市) 委員会宛 郵送またはFAX送信
(締め切り日) 平成30年4月10日
(発表) 機関誌「遺族の友」第257号(平成30年6月)発行に掲載します。
(選考)
短歌選考: 磯崎啓氏(米原市)
歌話「青垣」選考: しがよみうり文芸短歌選考者
俳句選考: 寺村しげる氏(彦根市)
元彦根市遊館館長 俳遊館入門講座講師 総務企画部広報委員会 奮って応募ください



英霊顕彰館だよりを読んで...

# 悲惨な語り継ぐ一助に

## 「悲劇のビルマ戦線」水彩画展

「悲劇のビルマ戦線」の水彩画展の感想文が、「遺族の友」第255号に掲載されており、愛宕町遺族会の思いつきから、山本賢司滋賀県護国神社宮司に相談をして展示いただいた経緯についてご報告をさせていただきます。

現在、絵画を所  
有されているのは、  
「NPO法人神戸ミ  
ヤンマー皆好会事務  
局」(神戸市中央区  
橘通1-2-12共進  
牛乳内)です。高野  
山成福院摩尼宝塔奉  
賛会で、大東亜戦争  
中のビルマでの悲惨  
な水彩画を故田畑敏  
雄氏(京都友禅染絵  
師)が復員後に描か  
れた絵画を展示され  
ていることを知り、  
昨年3月9日に実施  
しました愛宕町遺族  
会追悼式に借用をお  
願いしました。わざ  
わざ神戸から持参い  
ただき、展示準備か  
ら後始末までご協力  
をいただきました。

その後、感動を受  
けた絵画でもあり、  
山本宮司にご相談し、  
8月1日から27日ま  
で「みたま祭」の中  
心に、父の姿とも  
に父の辿った悲劇の  
苦勞と悲しみを表現  
された水彩画を、県  
民の皆様にも少しで  
もご理解が得られ  
ばと彦根市遺族会  
と彦根市遺族会のご  
協力もいただき、展  
示をさせていただきました。  
感動をいただいた

### おかあさんを訪ねて

水原 千代さん(100歳 近江八幡市)



夫は支那  
事変で金鶏  
勲章を授か  
り、氏神様  
の雅楽奉仕、  
村芝居等の  
リーダーと  
して活躍して  
いました。私  
は女学校を  
卒業後、芦屋  
で塩踏み奉公  
していましたが、  
里から「帰っ  
てこい」との  
指示で、鋤や  
鍬を持つた  
ことのないま  
ま農家へ嫁ぎ  
ました。半年  
が過ぎ、お腹  
に第一子を授  
かる中、夫に  
二度目の赤紙  
が届き、男の  
子であれば「  
一夫」女の  
子であれば「  
まり子」と命  
名し、はるか  
南の島フィリ  
ピン・ミンダ  
ナオ島へ赴き  
ました。「一  
夫は元気か?  
大きくなった  
か?」と家族

を思う手紙が  
数通届きました。  
昭和17年12  
月を迎え、家  
族は神棚にお餅  
を供え、正月  
を迎える準備  
のもと、役場  
の職員さんから  
「五郎作さん、  
この度名譽の  
戦死」と告げ  
られ、家族一  
同ただただ茫  
然と立ちすく  
み、三日三晩  
泣き崩れ、一  
夫も訳も分か  
らず泣いたこ  
とを75年経っ  
た今も脳裏か  
ら離れません。

親一人子一人  
のどん底の日  
々が始まり、  
毎日毎日田畑  
に向き、雨の  
日風の日夕暮  
れ遅くまで、  
時には降りし  
きる雨、落雷  
の中這いつく  
ばって働くの  
みでした。畦  
道で寝かす我  
が子のために  
。その心労に  
耐えられず、  
乳がんをはじめ  
大病の繰り返し  
でした。

その頃、未亡  
人会の設立。  
安土村でも40  
数人の方々と  
肩を寄せ合っ  
て、励まし合  
ったことが昨日  
のことのように  
思われます。そ

## 二度にわたる赤紙と私の人生ドラマ

先人の方々も今はあの世へ逝ってしまわれ、私一人が残ってしまっています。

会を通じて故守田厚子さんにもいろいろ勇気づけられ、我が子を立派に育てることが夫に報いることだ。そのためには靖國神社や護国神社に参拝することだと心に言い聞かせました。時の総理大臣の靖國参拝が叶わず、悲しく、夫の死を犬死にしたくないと思いつつ、何一つ欲しがらない息子と父の眠る靖國神社に参拝を重ねました。そして父の立派な働きと、後家の子だからと後ろ指を指されたい教育と躰に全身全霊をかたむけました。

夫の最期の地はどのような状況なのか、一度は戦地に赴き確認をしておきたかった。幸いに戦友の方々の情報提供のおかげで、多くのハブニングを乗り越えて50回忌の法要を戦地で行いました。米兵の墓地にも参拝

も県下各地で遺族会活動として展開されることを祈ります。  
(愛宕町遺族会 森野 久嗣)

素晴らしい展示物、我が県でも設置したいです。  
(福井県遺族連合会 副会長 Wさん)

命75年を経て参詣、記憶にたどりつきた御写真のみ、2人の娘と4人の孫を得ました。  
(大津市 女性)

「英霊のご加護のもと、今を無事に生

10月以降の来館者(記帳者のみ)  
10月 31人  
11月 63人  
12月 11人  
12月10日現在遺影掲揚数 3470柱  
遺影掲揚募集継続中  
(広報 原 幸男)

平成27年に設立された青年部であるが、平成29年度は青年部事業に初めて県から補助を受ける事ができた。そこで、最初にふさわしい事業を検討し、青年部単独での靖國神社参拝を企画した。戦没者の孫世代として、今後の遺族会活動にどう向き合っていくか。「まずは靖國参拝から」という思いから実施当日の10月21

日は、台風接近による不安定な天候で、翌日は衆議院議員選挙投票日という少々ざわついた日となった。

そんな俗世間とは一線を画した凛とした空間の靖國神社。昇殿参拝にて英霊顕彰の意義ひいては遺族会活動に対して思いを新たにしたい。その後場所を移して、宇田川剣雄日本遺族会副会長の講話を拝聴した。我々次世代がこれから遺族会として担っていくべき事、切り離していかざるを得ない事など、軽妙な口調で講話いただいた。そして最後には「超大型の台風なんだから早く戻らないと。俺

の話よりケントギルバートの本でも読みやすいよ」と粋なジョークでその場を締めくくられた。(確かにケントギルバートの著書は史実を学ぶ参考になると思う)

今回は早朝に米原駅集合、東京滞在約6時間で滋賀へという弾丸ツアーではあったが、参加者10人、親睦も深め、手応えありの事業となった。最後に今後とも青年部の事業へのご理解ご協力をお願いし、青年部の近況報告とさせていただきます。  
(追記)平成29年度も昨年に続き10月1日に滋賀県護国神社の清掃活動に参加者9人にて実施した。小さな積み重ねではあるが次年度も継続していきたい。青年部のみなさまのご参加をお待ちしている。  
(青年部会長 辻 正人)

### 青年部事業近況報告

## まずは靖國参拝から

平成29年10月31日発行第255号

5頁、「沖繩戦没者遺骨DNA鑑定実施」の記事で、1.申請書の提出について平成20年8月31日までとあるのは、平成29年8月31日の誤りでした。確認が不十分でした。

8頁、「平和のよるこび展開催」の記事で、「従軍慰安婦と薬」「従軍慰安婦の部」とあるのは、「従軍看護婦と薬」「従軍看護婦の部」の誤りでした。2校の校正において、「従軍看護婦」の前後を校正するときに、誤って「従軍慰安婦」と入力。3校から5校の校正時にもその間違いを見落しました。今後は二度とこのような誤りが無いよう厳正な校正を心がけます。

7頁、「愛知川甲魂碑に参拝して」の記事で、写真撮影は岸下剛さんでした。  
(広報委員会)



靖國神社神門前での青年部のみなさん

### 訂正してお詫びいたします

訂正して